

ふるさと名物「すながわスイーツ」を活用した観光振興

背景

- スイートロード協議会
- 「すながわスイーツ」でふるさと名物応援宣言
- 観光・商工振興事業準備勉強会

将来像

- 官民協働でスイートなまちづくり
- スイートロードのブランド力向上
- 観光客の増加によるまちの活性化
- 中空知広域 DMO 通過→滞在へ

観光客を呼び込み稼ぐ

実施主体：スイートロード協議会
—行政は体制づくりを下支え—

事業概要

- 観光コンセプトを策定
- 中空知広域 DMO
- スイート応援団
- コンテンツの発掘（1万円女子旅）
※自転車、義士衣装の購入・活用
- スイーツのレシピ開発
- インバウンド事業

課題

- 人口減少
- まちなか商店等の閉店
- H27 観光入込客数前年度比
6.9%減の 126.7 万人

実施主体：すながわスイートロード協議会

○目的：スイーツの意味は、心地よい、うれしい、美しいという意味もある

砂川のお菓子の魅力＋様々な地域資源の活用でまちのイメージアップと交流人口の創出

○組織

・ 会員：砂川商工会議所、観光協会、砂川商店会連合会、消費者協会、ネイパル砂川、菓子組合、農業団体、ボランティア団体

・ スイート応援団：砂川インバウンド受入協議会、クリエイター、女性団体など

事業の支援を相互に行う関係を構築、マークの入ったトートバックの作成

※実際に動く人、やりたい人がやる体制作り

○収益事業の実施

・ ふるさと納税返礼品の請負業務

・ 自転車レンタル収入

・ 協議会のホームページや広報紙を使った企業の広告掲載費の収入

・ ネットショップの運営収入

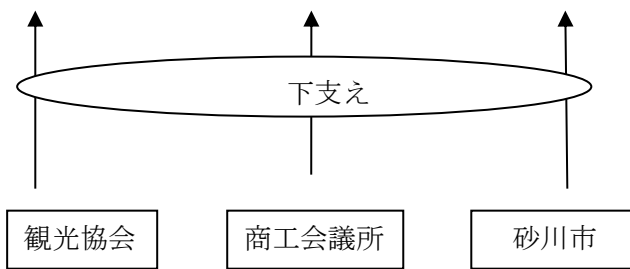
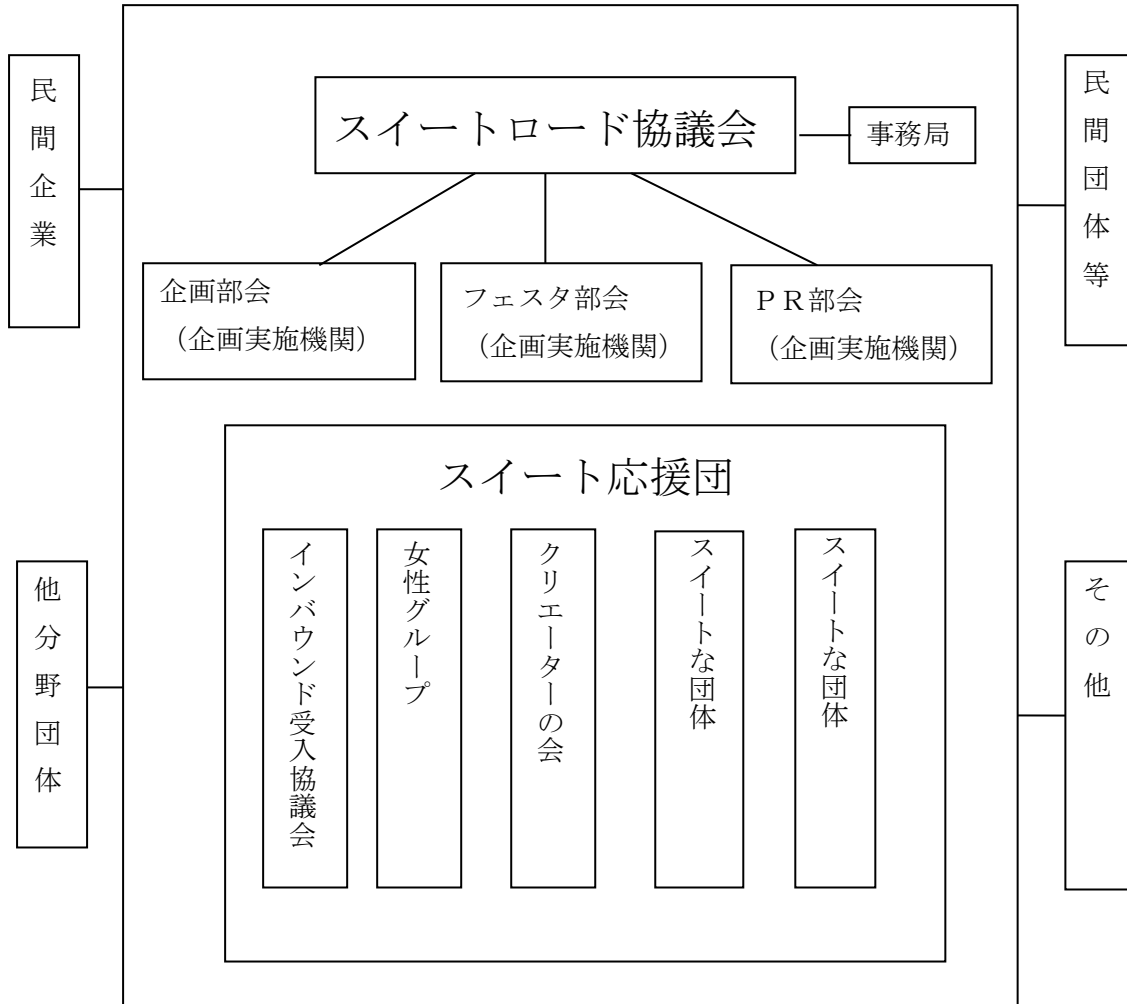
※観光全般にわたる広告宣伝や講師謝礼金は市が負担

事業に係る経費の一部は、従来どおり市からの補助金対応

地域おこし協力隊の活用（3年後の起業）、市職員は事務補助

	観光コンセプト	中空知広域DMO	スイーツ応援団	1万円女子旅	スイーツのレシピ開発	インバウンド	その他
			おもてなし観光ワークショップ				
H28	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会を開催 ・コンセプト策定 					<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド受入協議会設立 	
H29	<ul style="list-style-type: none"> ・検証 ・体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・滝川砂川着地型観光推進協議会(仮称)設立予定 ・スイーツロード協議会は会員として加入 ・マーケティング実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織作り ・周知・募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織作り ・メンバー募集 ・コンテンツ発掘 	<ul style="list-style-type: none"> ・試作 ・試食会 	<ul style="list-style-type: none"> ・市から補助金支出(協議会の事業内容) 旅行商品検討 義士体験受入 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光マップ作成 ・じゃらん、るるぶ ・義士衣装購入 ・自転車購入 ・ドローン映像 ・ふるさと納税返礼品の検討
H30	<ul style="list-style-type: none"> ・検証 ・今後の方向性検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業へ協力 ・自主事業の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ検討 ・受入事業所募集 ・モニターツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ・お菓子づくり教室 カフェ、飲食店のメニュー 親子(家庭) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市から補助金支出(協議会の事業内容) プロモーション 義士体験受入 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光動画作成 ・スイーツロードHP ・ふるさと納税返礼品請負
H31	<ul style="list-style-type: none"> ・検証 ・自走の取組協議、実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業へ協力 ・自主事業の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品化、販売 ・コンテンツ充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・菓子店の商品化 ・助成金の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・市から補助金支出 ・台湾の雑誌掲載 ・外国語観光マップ作成(協議会の事業内容) プロモーション 義士体験受入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットショップ

目標：スイートなまちづくり



広域観光DMO等
(中空知圏域の他市町との連携)

平成29年度 地方創生推進交付金(第1回) 新規事業様式

都道府県名	北海道	市区町村名	砂川市	地方公共団体コード	01226		
担当部署名	経済部商工労働観光課		責任者名	岩淵真里子	責任者役職	課長補佐	
担当者名	岩淵真里子	電話番号	0125-54-2121	メールアドレス	kigy@city.sunagawa.lg.jp		
事業タイプ	横展開タイプ	事業分野(大項目)	しごと創生	事業分野(詳細)	③(①、②を除く)ITを活用した中堅・中小企業の生産性向上、新規事業化、対日投資促進等のローカルイノベーション分野	事業分野	○
単独広域	①交付対象事業の名称						
単独	ふるさと名物「すながわスイーツ」を活用した観光振興						
②交付対象事業の背景・概要(各項目について簡潔に記載)	<p><A. 地方創生として目指す将来像(交付対象事業の背景)></p> <p>砂川市は、国道12号沿いに和洋の味わいもバラエティに富んだ美味しいスイーツが揃う菓子店が点在するスイーツロードとしてまちのブランディングを進め、平成14年5月にお菓子でまちを元気にしよう!と官民協働で「すながわスイーツロード協議会」を設立、平成27年12月に「すながわスイーツ」で道内第1号のふるさと名物応援宣言を行った背景から、「スイーツ」の意味である心地よい、うれしい、美しいなどに関連した美と健康をテーマに、札幌圏からの若い女性をターゲットにした少人数の「女子旅」の旅行商品やスイーツの開発などを行い、地域住民にとっても観光客にとっても心地よいスイーツなまちづくりを目指すものである。</p> <p>砂川市には、夕張メロンピュアゼリーの榊ホリをはじめとする菓子店やカフェが19店舗、パークチャップを提供する飲食店が21店舗ある他、地域の中核病院である砂川市立病院、人口一人当たりの都市公園面積日本一と言われる多数の公園、こだわりの物づくり企業など、観光コンテンツとなる地域資源が多数あることから、官民協働で砂川の魅力を発信する旅行商品や農工商連携による美と健康を考えたスイーツの開発、販売などを推進し、すながわスイーツのブランド力向上を図り、砂川市に観光客を呼び込み観光振興を図る。また、若い女性を対象とした女子旅の提案は、札幌圏に限らず、道外やインバウンドのニーズにも合致するものであり、地域住民や観光客がSNSを使った発信をしやすくなるような「かわいい」「すてき」をコンセプトにすることで、地域住民や観光客自らが情報を拡散する仕組みを作り、友人や家族などへのお土産消費にも繋げる。</p> <p>スイーツロード協議会が事業の実施主体となり、美と健康を考える女性団体やクリエイター、インバウンド受入協議会、市民ボランティアなどの観光事業を自ら推進する民間団体や個人をスイーツ応援団として位置づけ、官民協働で地域と一体となった砂川市の観光コンセプトを確立させるとともに、中空知における広域観光DMOの設立を目指す。</p>						
	<p><B. 地方創生の実現における構造的な課題></p> <p>砂川市は毎年200名以上の人口減少が進んでおり、商店等の閉店も顕著であり、市内経済、特に中心市街地の活性化が求められている。また、砂川市の平成27年度観光入込客数は、前年度比6.9%減の126.7万人となったことから、砂川市の魅力を十分に紹介し、ここでしか体験できないプレミアムな女子旅を提案する観光コンテンツの開発が急務である。</p> <p>砂川市を横断する国道12号は、札幌と旭川を結ぶ基幹道路であることから交通量は多く、平成27年度には砂川SAスマートインターチェンジが開通し、さらに交通の便が良くなったが、砂川市を訪れる観光客の多くは、高速道路と連動した砂川ハイウェイオアシス館に立ち寄り休憩やお土産を購入するが、高速道路を下りてまちなかを回遊する観光客の数は非常に少なく、いかにしてまちなか回遊に繋げるかが課題である。また、JR北海道の特急が30分に1回止まり、札幌まで50分で行ける立地条件を活かし、札幌圏の若い女性をターゲットにJRとタクシーを使った少人数の女子旅の提案を若い女性目線で策定するため、市内や近隣市町からスイーツ応援団になる若い女性の人材発掘や組織作りが求められている。</p> <p>これらの問題解決と並行して、現在の通過型観光から滞在型観光を目指すため、宿泊施設が少ない砂川市は近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域観光の取り組みの検討が課題である。</p>						
	<p><C. 交付対象事業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に、中小企業基盤整備機構本部プロジェクトマネージャー山本聖氏を講師に招き、砂川市の観光を考える勉強会を開催し、地域資源の掘り起こしを行い砂川市の観光コンセプトを作成した。その結果を受けて作成した事業計画の検証と実施主体となるスイーツロード協議会の自走に向けた取り組み支援などのワークショップをスイーツロード協議会やスイーツ応援団、行政職員などを対象に官民連携で開催する。また、広域観光DMOの設立に向けて会員として加入し、近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域観光の取り組みの検討により、広域観光DMOの設立を目指し、通過型観光から滞在型観光への移行を図る。 スイーツなまちづくりに向けたボランティア登録制度として、スイーツロード協議会が認定基準を設け「スイーツ応援団」を認定し、各種事業への参加協力などを依頼する。スイーツ応援団は、団体や個人を対象とし、スイーツロードマークのついたトートバックを配布し、そのバックを持って活動することでスイーツ応援団の存在の周知やPRを行いながら、スイーツなまちづくりのコンセプトにあった事業を自主開催する。その際、スイーツロード協議会会員の協力や広報活動などの支援を受けることができる。 まちづくり観光デザインセンター代表の加藤肇子氏を講師に招き、砂川のおもてなし観光を考えるワークショップを継続的に開催する。対象は、スイーツロード協議会会員、スイーツ応援団、サービス業などの事業者、一般市民として、観光資源の掘り起こしからはじめ、魅力的な観光マップの在り方や若い女性をターゲットとした旅行商品の開発、自転車レンタルの仕組みづくりや自転車観光ルートの検討を行う。また、砂川市の観光の広報宣伝活動の基礎づくりを行う。ここで出された意見をまとめ、観光マップやポスターの作成、旅行雑誌の掲載、ドローンを使った映像の活用を図る。 札幌圏からの若い女性をターゲットとした「1万円女子旅」を旅行会社と連携し旅行商品として売り出す。砂川には、1万円選書で有名ないわた書店があることから、その事業と融合し、観光客に「旅カルテ」の記入をお願いし、個人のニーズにあったあなただけのプレミアムな1万円女子旅を提案する。そのために、若い女性目線で多様なニーズに対応可能な魅力的なコンテンツの開発を検討するおもてなし観光ワークショップを開催し、スイーツ応援団となり活動する人材の発掘や組織づくりを進める。 砂川の農産物等を使用し、フードコーディネーターや高校生、農業者、スイーツ応援団、カフェ経営者などと連携し、若い女性をターゲットに美と健康や見た目のかわいさをテーマとしたスイーツの新商品を開発する。開発したレシピはカフェや飲食店、菓子店等に公開し、各店舗において個性ある商品化、販売を推進するとともに、スイーツロード協議会が運営するホームページのネットショップでの販売を行う。また、スイーツロード協議会が主催する菓子店やカフェのスイーツが一堂に集まるお菓子のお祭り「スイーツフェスタ」やお菓子づくり教室などを通じて、新商品の紹介、販売、レシピ公開を行い、家庭や地域にも普及させることで、子どもの頃から親しみのあるすながわスイーツとして定着させる。 インバウンド受入協議会が台湾の人気ブロガーを招き、台湾の観光客をターゲットとした魅力ある旅行商品の開発など、インバウンド事業の実施を行うため、市は補助金を支出し支援する。また、砂川市には、北海道唯一の義士会があり、北岳岳寺に義士墓があることから、毎年市民が義士パレード等を行う義士祭を開催し、61年続く砂川の冬の風物詩となっている。その背景から、昨年実施したインバウンドモニターツアーのメニューに義士体験を取り入れ好評であったことから、市が義士(侍)の衣装の整備を図り無償で貸し出すことで、インバウンド事業推進の支援を行う。 						
	<p><D. 交付対象事業が構造的な問題の解決に寄与する理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源の掘り起こしや観光コンセプトの検証、おもてなし観光のあり方などを官民協働のワークショップで共通認識を持ちながら意見を出しあうことで、ここでしか体験できない観光コンテンツの開発が可能となる。 スイーツロード協議会やスイーツ応援団を中心に、ここに住む人にとっても居心地のいいスイーツなまちづくりを進めることで、魅力ある旅行商品の開発を行いターゲットとする若い女性の観光客を呼び込み、個人のニーズに応じたプレミアムな女子旅を提案することで観光客が集まり、市街地の交流人口の増加や中心市街地の活性化につながり経済的効果が期待できる。 地域一体となりふるさと名物となるスイーツを開発することで、ストーリー性のある商品としてPRし、まちの連帯感を高めるとともに、スイーツロードのブランド力を高め砂川の魅力を発信できる。 広域観光DMOを設立することで、近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域観光の取り組みが可能となる。 						

③関連事業の概要

先行型交付金(タイプI)を活用		地方創生加速化交付金を活用		地方創生拠点整備交付金を活用		交付対象事業以外	○
-----------------	--	---------------	--	----------------	--	----------	---

<交付対象事業とは別に行う関連事業がある場合、以下に記載>

事業名	スイートロード協議会主催事業及びふるさと名物等を活用した観光振興勉強会	事業予算額	178千円
事業概要	スイートロード協議会が主催するメイン事業として9年前から市内の菓子店やカフェのスイーツが一堂に集まるお菓子のお祭り「スイーツフェスタ」を開催しており、その他菓子店を講師にしたお菓子づくり教室やパンフレットのぼりを作成しPR事業を実施している。また、本年1月に中小企業基盤整備機構本部プロジェクトマネージャー山本聖氏を招き、スイートロード協議会、青年会議所、クリエイター、女性グループ、地域おこし協力隊、観光協会、行政職員等33名が集まり、勉強会を開催した。地域資源を活用したまちづくりについて、講演やグループワークを通じて理解を深めるとともに、協力して実施していくための意思疎通を図り、観光コンセプトを策定した。		
交付対象事業との関連性	スイートロード協議会は、お菓子を中心に砂川のイメージアップを図るための事業やPRを行っており、本事業の実施主体となる団体である。また、勉強会は、推進体制づくり、事業実施へのきっかけ作りの場となり、スイートロード協議会会員にとっても、スイーツと地域資源を結びつけることでより効果的にスイートなまちづくりを進めることが可能となることを確認する場となった。		

事業の一部もしくは全てにおいて、類似の地域少子化対策事業について、「少子化対策重点推進交付金」と重複した申請の有無	なし
事業の一部もしくは全てにおいて、「地方創生拠点整備交付金」と重複した申請の有無	なし
日本版DMO関連事業である場合、観光庁が創設した「日本版DMO候補法人の登録制度」への登録もしくは登録予定の有無	なし

④交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)、経費内訳、費用対効果分析等

<交付対象事業実施期間全体>

KPI① (アウトカムベースで、複数年度を通じて評価指標としてふさわしいもの)	観光入込客数1,234,000人 → 1,342,000人						
KPI②	スイートロード協議会主催事業参加人数 1,335人 → 1,800人						
KPI③							
KPI④ (アウトカムベースで、複数年度を通じて地方の平均所得の向上としてふさわしいもの)							
設定したKPIが複数年にわたって費用対効果を計測するのに適している理由 (「地方の平均所得の向上」に該当する理由も記載)	砂川市の魅力再発見や地域の課題の分析調査を行い、観光コンセプトの策定、事業を実施、検証を通じて効果的なプロモーションを実施することで観光客数の増加を目指すためKPI①の測定が適当。 スイートロード協議会が主催する事業が「すながわスイーツ」を広くPRする効果を生み、新たな観光客の呼び水となり観光客の増加を目指すことからKPI②の測定が適当。						
地方版総合戦略における基本目標と数値目標	基本目標2 新しい人の流れをつくる (2)観光の活性化等を通じた交流人口の増加 数値目標: 観光入込客数 1,329千名(H26) → 1,342千名(H31)						
	事業開始前 (現時点)	平成29年度増加分 (1年目)	平成30年度増加分 (2年目)	平成31年度増加分 (3年目)	平成32年度増加分 (4年目)	平成33年度増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
KPI①【①】	1,234,000.00	10,000.00	20,000.00	78,000.00			108,000.00
KPI②【②】	1,335.00	100.00	150.00	215.00			465.00
KPI③【③】							0.00
KPI④【④】							0.00

	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	平成31年度 (3年目)	平成32年度 (4年目)	平成33年度 (5年目)	合計
交付対象事業額【⑤】 ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。	11,123千円	9,988千円	9,506千円	0千円	0千円	30,617千円
交付対象事業における単位当たりコスト【⑤/①】	1.11千円	0.50千円	0.12千円	0.00千円	0.00千円	
「地方の平均所得の向上」における単位当たりコスト【⑤/④】	0.00千円	0.00千円	0.00千円	0.00千円	0.00千円	
交付対象事業全体における単位当たりコスト【⑤の合計/①の累計】						0.28千円
交付対象事業におけるハード事業経費【⑥】	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
交付対象事業におけるハード事業比率【⑥/⑤】	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

<1年目>

全事業期間における本年の位置づけ	<p>・中小企業基盤整備機構本部プロジェクトマネージャー山本聖氏を招き、スイーツと地域資源が一体となった観光コンセプトをスイートロード協議会会員やスイート応援団、行政職員などを対象に官民連携で検証し推進体制を整備していくためのワークショップや勉強会を年間2回実施する。また、広域観光DMOの設立に向けてスイートロード協議会が会員として加入し、マーケティングを実施する。</p> <p>・スイートなまちづくりに向けたボランティア登録制度として、スイートロード協議会が認定基準を設け「スイート応援団」を認定し、各種事業への参加協力などを依頼する。スイートロード応援団は、団体や個人を対象とし、スイートロードマークのついたトートバックが配布され、スイート応援団として、スイートなまちづくりにあった事業を自主開催する場合には、スイートロード協議会の公認を受け会員の参加協力や広報活動の支援を受けることができる制度として、事業周知や応援団の募集を行う。</p> <p>・まちづくり観光デザインセンター代表の加藤肇子氏を講師に招き砂川のおもてなし観光を考えるワークショップを3回開催する。1回目は、観光コンテンツの発掘、2回目は1万円女子旅の検討、3回目は新商品の開発をテーマとする。対象は、スイートロード協議会会員、スイート応援団、サービス業などの事業者、一般市民などとして、観光資源の掘り起こしからはじめ、魅力的な観光マップの在り方や若い女性をターゲットとした旅行商品やスイーツの新商品開発、自転車観光ルートの検討などを行い、砂川市の観光の広報宣伝活動の基礎作りを行う。ここで出された意見をまとめ、観光マップやポスターの作成、札幌圏を中心に観光発信できる旅行雑誌北海道じゃらんやるるぶ北海道に記事掲載を進める。また、動画の発信として北海道の広大さをアピールするためドローンによる映像を撮影し活用する。市が自転車を購入し、スイートロード協議会に無償で貸し出し、観光コンテンツの一つとなる観光サイクリング事業の実施を支援し、自転車レンタル料は、スイートロード協議会の収益とする。</p> <p>・札幌圏からの若い女性をターゲットとした「1万円女子旅」を検討するため、若い女性目線で多様なニーズに対応可能な魅力的なコンテンツの開発を検討するため、おもてなし観光ワークショップと連携し推進する。スイート応援団となり活動する人材の発掘や組織作りにつなげる。</p> <p>・砂川の農産物を使用し、フードコーディネーターや高校生、農業者、スイート応援団、カフェ経営者などと連携し、若い女性をターゲットに美と健康や見た目のかわいさをテーマとしたすなわスイーツの新商品の検討、試作、試食会を、おもてなし観光ワークショップやスイートロード協議会主催のスイーツフェスタなどと連携して実施する。</p> <p>・インバウンド受入協議会が台湾の人気ブロガーを招き、台湾を第1ターゲットとした魅力ある旅行商品の開発の検討をするため、市は補助金を支出し支援を行う。また、市が義士(侍)の衣装の整備を図り、インバウンド受入協議会に無償で貸し出し、観光コンテンツの一つとなる義士体験などの実施を支援する。</p>					
事業開始時期	事業終了時期	KPI①		事業終了時点のKPI増加分【①】		
平成 29 年 6 月	平成30年 3 月	観光入込客数1,234,000人 → 1,342,000人		10,000.00		
交付対象事業額【②】	11,123千円			交付対象事業におけるハード事業経費	0千円	
交付金対象事業経費内訳				交付対象事業におけるハード事業経費内訳		
<ul style="list-style-type: none"> ・観光コンセプト策定:100千円 講師謝礼100千円 / アドバイザー50千円×2回 ・広報宣伝・プロモーション:7,962千円 印刷製本費2,950千円 / 観光マップ新規作成2,636千円、ポスター作成314千円 広告料4,666千円 / 北海道じゃらん(年3回)3,121千円、るるぶ北海道1,545千円 委託料346千円 / ドローン映像委託料346千円 ・スイーツ関連事業:178千円 補助金178千円 / スイートロード事業補助金178千円(スイーツフェスタ、企画、PR事業) ・スイーツの商品開発:257千円 講師謝礼60千円 / 商品開発講師20千円×3回 印刷製本費97千円 / 試食会チラシ 97千円×1回 原材料費100千円 / 商品開発材料費100千円 ・受入体制の確立:2,626千円 講師謝礼210千円 / おもてなし観光講師70千円×3回 消耗品費132千円/トートバック作成 100千円、ネームホルダー32千円 印刷製本費97千円 / 事業周知用チラシ作成97千円×1回 備品購入費1,687千円 / 観光サイクリング購入498千円、義士衣装一式購入1,189千円 補助金500千円 / 砂川インバウンド受入協議会補助金500千円(台湾ブロガー-招致等) 						
交付対象事業における単位当たりコスト【②/①】	1.11千円					

<2年目> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置づけ		<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業基盤整備機構本部プロジェクトマネージャー山本聖氏を招き、スイートロード協議会会員やスイート応援団、行政職員などを対象に官民連携で事業の検証や方向性の修正、今後の方向性を協議し実施体制の確立を図るため、ワークショップや勉強会を年間2回実施する。また、広域観光DMOの設立に向けて具体的な検証を進める。 ・まちづくり観光の専門家を招き1万円女子旅の体制整備を図るため、砂川のおもてなし観光ワークショップを年間3回開催する。1回目は、若い女性を対象に、札幌圏からの若い女性をターゲットとした1万円女子旅に使える魅力的なコンテンツの掘り起こしと受け入れ事業者の検討。2回目は、開発されたコンテンツの受入団体やサービス業の事業者等を対象に、受け入れ体制の整備を図る。3回目は、スイートロード協議会やスイート応援団、1回目2回目の参加者、旅行商品として対応可能な旅行会社を対象に、1万円女子旅の旅行商品や旅カルテの内容検討。開発された旅行商品のモニターツアーを実施し、次年度の旅行商品販売に向けた検証を行う。また、スイートロード協議会は、自転車レンタル料を財源に自転車の保守点検を行うが、保守点検費用の一部を市が支援する。 ・スイートロード協議会が主催し、スイーツの新作商品のレシピを使ったお菓子づくり教室やカフェでの販売促進、スイーツフェスタでの販売やPRを行う。お菓子づくり教室は、カフェや飲食店を対象にメニューに取り上げてもらうことを目指し、各店舗の特色ある商品作りの働きかけや支援を行う。また、親子などを対象にしたお菓子づくり教室を開催し、家庭にすながわスイーツの普及を行い、子どものころから親しむ環境を作る。 ・スイートロード協議会のホームページの充実を図り、1万円女子旅の旅行商品の紹介や観光コンテンツの魅力発信などを行う。また、砂川市から、ふるさと納税の返礼品業務の一部請負を予定しており、スイートロード協議会がスイーツと地元特産品などをセットした返礼品を開発し、店舗間の調整や魅力的な返礼品の紹介をホームページで発信することで、市から手数料を徴収しホームページの管理運営費に充てる。また、商品開発されたスイーツの販売やスイーツと地元特産品のセットを販売するネットショップの開設に向けた準備を進める。 ・インバウンド受入協議会が、台湾のプロガーと連携し旅行商品を開発して、台湾人をターゲットに札幌圏などでプロモーションを行うため、市は補助金を支出し支援を行う。 			
事業開始時期	事業終了時期	KPI①		事業終了時点のKPI増加分【①】	
平成30年4月	平成31年3月	観光入込客数1,234,000人 → 1,342,000人		20000	
交付対象事業額【②】	9,988千円		交付対象事業におけるハード事業経費	0千円	
交付金対象事業経費内訳			交付対象事業におけるハード事業経費内訳		
<ul style="list-style-type: none"> ・観光コンセプト策定:300千円 講師謝礼300千円 / アドバイザー150千円×2回 ・広報宣伝・プロモーション:8,239千円 印刷製本費1,073千円 / 観光マップ改訂増刷673千円、スイートロードマップ作成251千円、スイートロードポスター作成149千円 広告料4,666千円 / 北海道じゃらん(年3回)3,121千円、るるぶ北海道1,545千円 委託料2,500千円 / PR動画制作委託料1,500千円 ホームページ作成委託料1,000千円 ・スイーツ関連事業:178千円 補助金178千円 / スイートロード事業補助金178千円(スイーツフェスタ、企画、PR事業) ・スイーツの商品開発:354千円 講師謝礼60千円 / 商品開発講師20千円×3回 印刷製本費194千円 / 事業周知用チラシ作成97千円×2回(実施前、完成後) 原材料費100千円 / 商品開発材料費100千円 ・おもてなし観光:917千円 講師謝礼210千円 / 講師70千円×3回 印刷製本費97千円 / 事業周知用チラシ作成97千円×1回 修繕料110千円 / 自転車等点検委託料110千円 補助金500千円 / 砂川インバウンド受入協議会補助金500千円(インバウンド対応) 					
交付対象事業における単位当たりコスト【②/①】	0.50千円				

<3年目> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置づけ		<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業基盤整備機構本部プロジェクトマネージャー山本聖氏を招き、スイートロード協議会会員やスイート応援団、行政職員などを対象に官民連携で事業の検証と自走に向けた取組み支援及び今後の方向性の確立を図るワークショップや勉強会を年間2回実施する。また、広域観光DMOにおいて、砂川市としての関わりを明確にした中で民間企業と協力して、スイートロードを広域の枠組みの中で推進できる体制となるよう働きかける。 ・まちづくり観光の専門家を招き1万円女性旅の商品化、販売に関して、砂川のおもてなし観光を考えるワークショップや勉強会を年間3回開催する。1回目は、受入事業所や若い女性を対象に、心地よいおもてなしについて協議する。2回目はスイートロード協議会のホームページで行うネットショップの商品のセレクトについて協議する。3回目は、旅行商品のPRの仕方について協議する。旅カルテに基づいた旅行商品の販売は、専門的知識を要することから旅行会社が行い、魅力あるコンテンツの開発や受入体制の整備は、スイートロード協議会が行う。また、スイートロード協議会は、自転車レンタル料を収益として自転車の保守点検を行う。 ・スイーツの新作商品を菓子店に公開し、菓子店のオリジナル商品として各店舗の特色あるスイーツを開発し販売に繋げ、市は商品開発にかかる助成金などの紹介や申請手続きの支援を行う。 ・スイートロード協議会のホームページの充実を図り、ネットショップを開設する。ふるさと納税の返礼品業務の一部を引き続き請負、すながわスイーツの新作商品の販売やスイーツと手作り雑貨のセットやスイーツとコスメのセットなど、店舗間のコラボ企画として、若い女性目線のセレクトを行い販売することで得る収益をホームページの保守点検費用に充てる。 ・インバウンド受入協議会が、台湾のプロガーと連携し旅行商品を開発して、台湾人をターゲットにプロモーションを行うため、市は補助金を支出し支援を行う。市は、台湾向け旅行雑誌への掲載や外国語観光マップの作成を行い、インバウンド事業の検証と協議会の自走に向けた取組み支援及び今後の方向性を確立させる。 			
事業開始時期	事業終了時期	KPI①		事業終了時点のKPI増加分【①】	
平成31年4月	平成32年4月	観光入込客数1,234,000人 → 1,342,000人		78000	
交付対象事業額【②】	9,506千円		交付対象事業におけるハード経費	0千円	

交付金対象事業経費内訳		交付対象事業におけるハード事業経費内訳
<ul style="list-style-type: none"> ・観光コンセプト実施検証: 300千円 講師謝礼300千円 / アドバイザー150千円×2回 ・広報宣伝・プロモーション: 7,955千円 印刷製本費3,214千円 / 観光マップ改訂増刷673千円、ポスター作成314千円 外国版パンフレット作成1,886千円、 スイートロードバナー、のぼり作成341千円 ・広告料4,741千円 / 北海道じゃらん(年3回)3,121千円、台湾向け雑誌1,620千円 ・スイーツ関連事業: 178千円 補助金178千円 / スイートロード事業補助金178千円(スイーツフェスタ、企画、PR事業) ・スイーツの商品化: 266千円 講師謝礼60千円 / 商品開発講師20千円×3回 印刷製本費206千円 / PR用チラシ作成206千円 ・おもてなし観光の確立: 307千円 講師謝礼210千円 / 講師70千円×3回 印刷製本費97千円 / 事業周知用チラシ作成97千円×1回 ・インバウンド事業: 500千円 補助金500千円 / 砂川インバウンド受入協議会補助金500千円(インバウンド対応) 		
交付対象事業における単位当たりコスト【②/①】	0.12千円	

<4年目> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置づけ			
事業開始時期	事業終了時期	KPI①	事業終了時点のKPI増加分【①】
平成 年 月	平成 年 月	観光入込客数1,234,000人 → 1,342,000人	
交付対象事業額【②】	0千円	交付対象事業におけるハード経費	0千円
交付金対象事業経費内訳		交付対象事業におけるハード事業経費内訳	
交付対象事業における単位当たりコスト【②/①】	0.00千円		

<5年目> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置づけ					
事業開始時期		事業終了時期		KPI①	事業終了時点のKPI増加分【①】
平成 年 月		平成 年 月		観光入込客数1,234,000人 → 1,342,000人	
交付対象事業額【②】		0千円		交付対象事業におけるハード経費	0千円
交付金対象事業経費内訳				交付対象事業におけるハード事業経費内訳	
交付対象事業における単位当たりコスト【②/①】		0.00千円			

⑤交付対象事業の予算計上時期

予算計上時期	平成29年 3月	予算種別	当初	
--------	----------	------	----	--

⑥本事業の効果検証及び事業見直しの方法、時期及び体制

外部組織による検証の有無	あり	検証時期	平成30年3月	
検証方法	総合戦略の効果検証に際して、その妥当性・客観性を担保するため、外部有識者等の参画を得て実施する。外部組織は、砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定した目標数値の検証・評価及び必要に応じて施策の見直しについて提言を行う。			
外部組織の参画者	新砂川農業協同組合、砂川観光協会、砂川商工会議所、砂川建設協会、砂川市校長会、砂川金融協会、砂川市町内会連合会、砂川地区連合会、砂川青年会議所			
検証結果の公表の方法	砂川市ホームページ			
議会による検証の有無	あり	検証時期	平成30年4月	
検証方法	市議会常任委員会で報告・審議し、検証する。			

⑦事業の仕組み

	説明
(1) 地域経済分析システム (RESAS) の活用などによる客観的なデータやこれまでの類似事業の実績評価に基づき事業設計がなされていること。	砂川市中心部には、体験型施設は無く、宿泊施設も少ないため、宿泊者数は3.3万人と、観光入込客数の2%しか宿泊していないことになる。これは、全道平均17.8%と比べると低い数字である。RESAS「滞在人口時間別推移」においても、夜間は人口割れを起こしており、観光客も砂川市郊外にある子どもの国等へ向かって日帰りで帰るといった動きが中心で、市街地の周遊には至っていないということが考えられる。
(2) 事業の企画や実施に当たり、地域における関係者との連携体制が整備されていること。	スイートロード協議会の構成団体である砂川商工会議所、砂川観光協会、砂川商店街連合会、青年会議所、消費者協会、ネイバル砂川、菓子組合、カフェなどに加え、事業の企画実施にあたっては女性団体、クリエイター、インバウンド受入協議会、農業団体、市民ボランティアなどのスイート応援団と連携し、さらなる取り組みを推進する。

⑧先駆性に係る取組（原則として、先駆タイプは、(1)～(4)全て、横展開タイプ及び隘路打開タイプは、(1)に加え(2)～(4)のうち2つの要素を満たすこと。）

	取組内容					
<p>(1) 自立性</p> <p>〔先駆性のポイント〕 事業を進めていく中で、「稼ぐ力」が発揮され、事業推進主体が自立していくことにより、将来的に本交付金に頼らずに、事業として自走していくことが可能となるもの。 具体的には、事業収入や会員からの収入、また、地方公共団体独自の財源確保等に取り組むもの。</p>	自立性のポイント	<p>現在のスイートロード協議会の機能をさらに強化し、スイート応援団とともにスイートなまちづくりを進める総括的組織として官民連携で事業を行い、観光客を砂川市に呼び込み、菓子店やカフェ、商店街などが稼ぐ仕組みを作る支援を行うことから、主催事業にかかる経費の一部は市が補助金で支出し、観光全般にわたる広告宣伝費や講師謝礼は市の一般財源で担う。備品購入や商品開発は3年間で整備を終え不要となる。</p> <p>スイートロード協議会の自主財源としては、スイートロード協議会が主催する1万円女子旅やスイーツフェスタ、新商品のPRなどを行う広報紙やSNSの発信にかかる経費を掲載企業から協賛金を募り財源とする。また、自転車のレンタル収入やふるさと納税返礼品業務の一部請負、ネットショップの掲載事業者より手数料を徴収し運営費の財源とする。</p>				
	3～5年以内の自立化の見込み	① あり(自主財源による自立)				
	自主財源の種類	自主財源の内容と実現方法				
	[A]スイートロード協議会補助金	すながわスイートロード協議会が実施する事業に対し市から予算の範囲内で補助金を支出				
	[B]市一般財源	観光全般にわたる広告宣伝費や講師謝礼は市の一般財源で負担し講師を無償で派遣する。				
	[C]協賛金	スイートロード協議会が主催する、1万円女子旅やスイーツフェスタ、新商品のPRなどを行う広報紙等の発行は、掲載企業から協賛金を募り財源にする。				
	[D]事業収入	スイートロード協議会が行う自転車のレンタル収入やふるさと納税返礼品業務の一部請負、ネットショップの掲載事業者より手数料を徴収し運営費の財源とする。				
	各年における自主財源額	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	平成31年度 (3年目)	平成32年度 (4年目)	平成33年度 (5年目)
	[A]	178千円	178千円	178千円	178千円	178千円
	[B]	0千円	0千円	0千円	5,000千円	5,000千円
[C]	200千円	300千円	400千円	500千円	500千円	
[D]	0千円	100千円	300千円	500千円	500千円	
合計	378千円	578千円	878千円	6,178千円	6,178千円	
<p>(2) 官民協働(それぞれの役割を記載)</p> <p>〔先駆性のポイント〕 地方公共団体のみでの取組ではなく、民間と協働して行う事業であること。また、単に協働するにとどまらず、民間からの資金(融資や出資など)を得て行うことがあれば、より望ましい。</p>	官民協働のポイント	砂川商工会議所、観光協会、砂川商店街連合会、青年会議所、消費者協会、ネイバル砂川、菓子組合、カフェなどで構成する「スイートロード協議会」や女性団体、クリエイター、インバウンド受入協議会、農業団体、市民ボランティアなどで構成する「スイート応援団」などと行政が一体となって、砂川市の魅力再発見や地域の課題の分析調査を行い、砂川市の観光コンセプトを検証し、観光客を呼び込むための効果的なプロモーションを官民協働で実施する。				
	行政の役割	観光事業推進の基礎となる広告宣伝や観光客を呼び込むための意識啓発を行い、観光資源の発掘や商品化を支援する。 地元農作物を使ったスイーツの新商品レシピの開発を行い、カフェや飲食店、菓子店などによる商品開発に向けた助成金等の情報提供を行う。				
	民間事業者の役割	観光資源を活用した商品開発や観光商品の開発を行い、事業者が商品化、販売するネットワークを確立させ、稼ぐ力を養い地域経済の発展に繋げる。				
	金融機関の役割	金融協会と連携し、雇用の創出や新商品開発、それに伴う設備投資などの資金面の相談・アドバイスなどを行う。				
	その他(連携者名と役割)	<ul style="list-style-type: none"> 女性団体: 1万円女子旅のコンテンツの掘り起こしや旅行商品の開発、PR スイーツの新商品開発チーム: 農作物等を活用したスイーツの新商品レシピの開発、普及 スナガワクス: クリエーターが集まった団体で、商品のパッケージや観光事業の広報を支援 市内ものづくり企業: 体験活動などの実施による観光メニューの充実への協力 市内文化団体: 体験活動などの実施による観光メニューの充実への協力 旅行社: 旅行商品の開発・販売に向けての協力 市内交通関連企業: 移動手段の確保に関する協力 インバウンド受入協議会: モニターツアーなどの実施や受け入れ体制を整備するとともに、義士体験などの体験事業を実施 北海道義士会: 義士祭を開催し砂川の冬の祭として観光PRを行う 観光協会: 観光PRや会員と本事業実施者との連携の橋渡し 商店街連合会: 観光客のまちなか回遊に係る対応協力 砂川市移住定住協議会: 移住定住フェアなどのイベントにおける観光PRの連携 				

<p>(3) 政策間連携(連携政策の効果とワンストップ化の内容を記載)</p> <p>〔先駆性のポイント〕 単一の政策目的を持つ単純な事業ではなく、複数の政策を相互に関連づけて、全体として、地方創生に対して効果を発揮する事業であること。また、利用者から見て意味あるワンストップ型の窓口等を整備して行う事業であること。</p>	<p>政策間連携のポイント</p> <p>すながわスイーツのブランド力向上を図ることで、観光客の受け入れ体制の整備や農工商連携による新商品のレシピ開発などを総合的に推進する。また、スイーツ(心地よい等)なまちづくりには、移住定住や子育て等も関係することから、政策間の連携も深めていく。</p>
	<p>連携政策①</p> <p>農工商連携の推進 フードコーディネーターや高校生、農業者、スイーツ応援団、カフェ経営者などと連携し、すながわスイーツの新商品のレシピ開発を行い、レシピの公開やお菓子づくり教室などで広報し、カフェや飲食店、菓子店等が各店舗の特色ある商品化、販売を行う仕組みづくりができることで、農工商連携が推進される。また、地元農作物の付加価値や販売を促進させ、農業者のモチベーションを上げる効果が期待できる。</p>
	<p>連携政策②</p> <p>砂川のブランディングによる移住定住促進 観光客として砂川を訪れることをきっかけに、地域住民にとっても観光客にとっても心地よいスイーツなまちづくりを推進していることを体感することで、移住定住を促進する。</p>
	<p>連携政策③</p> <p>ワーク・ライフ・バランスとキャリアデザインの推進による雇用創出事業 若者の就労支援事業として、雇用創出協議会が主催し、地元高校2年生と札幌圏の大学生を対象に1週間程度インターンシップの要素を取り入れながら実際に若手従業員から仕事を教わるジョブスタールバイト体験事業を実施する。この事業の、一つのアルバイト先として、毎年スイーツロード協議会が主催し500名以上の参加が見込まれるお菓子のお祭り「スイーツフェスタ」で販売する各店舗のお菓子の製造や販売のサポートを行うなど連携して実施することで、学生は、お菓子づくりやお客様の対応から仕事の楽しさや厳しさを学び、地元企業を知る機会や働くことを考える機会となり、高校生の地元定着の促進や大学生、Uターンなどの雇用創出が期待できる。</p>
	<p>ワンストップ化の内容</p> <p>スイーツロード協議会は、砂川商工会議所、観光協会、砂川商店街連合会、青年会議所、消費者協会、ネイパル砂川、菓子組合、カフェ等で構成されており、民間企業、金融機関などもネットワークの構築が可能であり、すながわスイーツに関連することは、協議会がワンストップ窓口として事業を展開する。</p>
<p>(4) 地域間連携(各地方公共団体の役割を記載)</p> <p>〔先駆性のポイント〕 単独の地方公共団体のみの取組ではなく、関係する地方公共団体と連携し、広域的なメリットを發揮する事業であること。</p>	<p>地域間連携のポイント</p> <p>・中空知地域における広域観光DMO設立を目指し、平成29年度から「滝川砂川着地型観光推進協議会(仮称)」を設立し、その会員として「スイーツロード協議会」が加入予定である。また、近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域観光の取り組みを推進し砂川市や観光協会、他の民間企業等も加入することで、地域間連携を深めていく。</p>
	<p>地方公共団体名①及び役割</p> <p>滝川市 平成29年度から「滝川砂川着地型観光推進協議会(仮称)」を設立し、中空知において、両市が中心的役割を担いながら、中空知広域DMOの設立を推進することで、近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域観光の取り組みが可能となる。</p>
	<p>地方公共団体名②及び役割</p> <p>東空知観光周遊ルート創出推進協議会 砂川市、滝川市、芦別市、赤平市、歌志内市が連携し、各市町の観光コンテンツの発信やモデル周遊コースなどの協議を行い外国語パンフレットを作成し、インバウンド事業を推進することで、広域連携により観光客を呼び込む体制の整備を図る。</p>
	<p>地方公共団体名③及び役割</p> <p>中空知定住自立圏構想推進会議 中空知5市5町の観光関係者が集まり、観光推進についての情報交換を定期的にも実施し、広域観光に向けた体制の整備を図る。</p>
	<p>地方公共団体名④及び役割</p> <p>北海道 商品の販路拡大や観光PRなどにおいて、北海道が主催する事業や北海道として出展する事業などに参加し、北海道ブランドを活用した広報活動を連携し実施する。</p>
<p>(5) 事業推進主体の形成</p> <p>〔先駆性のポイント〕 事業を実効的・継続的に推進する主体が形成されること。特に、様々な利害関係者が含まれつつ、リーダーシップを發揮できる強力な人材を確保するとともに、必要な能力、知識を有した人材を適切な手段で確保することが望ましい。</p>	<p>事業推進主体の名称</p> <p>すながわスイーツロード協議会</p> <p>設立時期</p> <p>14 年 5 月</p>
	<p>構成メンバー</p> <p>すながわスイーツロード協議会会員 砂川商工会議所、観光協会、砂川商店街連合会、青年会議所、消費者協会、ネイパル砂川、菓子組合、カフェ スイーツ応援団 女性団体、クリエイター、インバウンド受入協議会、農業団体、市民ボランティア</p>
	<p>事業推進主体の事業遂行能力</p> <p>スイーツロード協議会は、平成14年より市の補助金を主な財源として事業を開始し、実施内容に応じて各団体や市と連携をしながら、すながわスイーツのイメージアップや自主事業を実施してきた。更に、スイーツ応援団を組織し新たな団体や個人などを加えることで、事業遂行能力をさらに高め観光事業を推進していく。</p>
	<p>経営責任の明確化</p> <p>スイーツ応援団やおもてなし観光ワークショップ参加者などが事業の企画を作成し、スイーツロード協議会が効果的に実施するための協議を行い実施する。会員は各母体組織を中心に周知を図り、各種事業への連携協力体制を整備する。スイーツロード協議会の事務局は、地域おこし協力隊が担い、市は観光全般に係る広報PRや講師の派遣、関係機関との橋渡しなどを行い事業を支援する。</p>
<p>(6) 地方創生人材の確保・育成</p> <p>〔先駆性のポイント〕 事業を推進していく過程において、地方創生に役立つ人材の確保や育成に資するものであること。</p>	<p>地域独自の人材ニーズ</p> <p>①若い女性のニーズに応じた魅力的な観光コンテンツを考え、実施に向けて活動する女性団体 ②砂川の観光事業を推進するスイーツ応援団 ③スイーツの新商品開発に取組み、商品化に繋げるカフェや菓子店</p>
	<p>人材の確保・育成方法</p> <p>①ホームページやフェイスブック、若い女性の多い職場を訪問するなどして募集を図り、おもてなし観光ワークショップを通じてノウハウを学び、積極的に活動する中で人材育成が図られる。 ②地域で活動している団体や個人への声かけにより応援団の参加促進を図り、観光コンセプトの検証や今後の方向性などを学ぶことで、スイーツロード協議会と一体となった事業推進を可能とし人材育成が図られる。 ③新商品のレシピを広く公開し、カフェや飲食店、菓子店において、独自性を持った商品開発が進むよう働きかけを行う。</p>
<p>(7) 国の総合戦略における政策5原則等</p> <p>〔先駆性のポイント〕 国の総合戦略における政策5原則(将来性、地域性又は直接的)の観点や新規性など、他の地方公共団体において参考となる先駆的事业であること。</p>	<p>狙う市場や実現したい将来像(将来性)</p> <p>北海道内にはスイーツロードの知名度は上がってきていることから、札幌圏から首都圏へ市場の拡大を図るとともに、日本人と行動形態が似ている台湾を中心としたインバウンド事業を推進し、各菓子店の販売促進や新商品の支援を行い、砂川市に観光客が集まる仕組みを確立させる。</p>
	<p>地域の強み/地域特性(地域性)</p> <p>スイーツロード協議会をはじめとする、地域住民で組織する任意団体が様々な取組みを活発に行っており、コンパクトなまちであることを活用し、観光コンセプトを見定めることで、地域と一体となって同じ意識のもと観光事業を進める体制の整備を図ることができる。</p>
	<p>直接性</p> <p>スイーツロード協議会には既に各分野の関係団体が入っており、さらにスイーツ応援団等が一体的に事業を実施することで、砂川市の観光振興、商工振興を集中して実施可能な体制とし、スイーツロード協議会がワンストップ窓口としての役割を担い連携体制の整備を行っている。</p>
	<p>新規性</p> <p>・ふるさと応援宣言をした「すながわスイーツ」を柱に、お菓子だけでなくまち中のスイーツ(心地よい、うれしい、美しい)なもの・ひと・ことを洗い出し、計画化し、地域が一体となって事業展開を図る。 ・近隣市町と連携し各市町の観光コンセプトやブランド力を融合させた魅力的な広域DMOの設立に繋げる。</p>